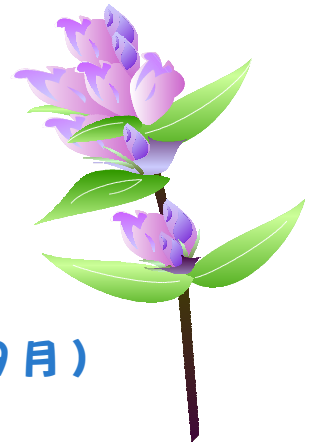


# くろ みね 黒 峰



やすらぎ能登通信 第71号(令和2年9月)

〒927-1222 珠洲市宝立町鶉飼6-20番地  
TEL/FAX(0768)84-1014

コロナ禍の状況下で、学校現場はこれまでに経験したことのない異例づくめの年間スケジュールの中で、多少手探りしながら日々の教育活動を進行しているのではないかと思われる。

さて、8月16日付北國新聞朝刊で、“**異例の短縮夏休み 明日から新学期の地域も 学校つらい子、責めないで**”の見出しが目にとまりました。記事には次のように書いてありました。「子どもを追い詰めないためには、どうすれば良いのか。ミークス<sup>1</sup>を運営する認定NPO法人「3 keys」(東京)の森山誉恵代表理事は『大人が“学校に行くべきだ”などとプレッシャーを与えないようにすべきだ。安心できる居場所を用意できないのは大人の責任。“だから、自分が悪いと責めないで”と、子どもに伝えていくことが大切』と語る。」

当教室でも支援を継続しながらも、時々立ち止まって、子どもを取り巻く環境の中に当人がプレッシャーに感じていることは無いのかと、自問してみることも必要かなと思っています。

8/18(火) 13:30~15:00

“R2やすらぎ能登教室の教育相談研修会”を開催

当教室のSV 竹林勇祐氏(臨床心理士)に毎年恒例の教育相談研修会で、『SVとSSWの役割と活用のあり方』と題して講話をいただきました。今回はコロナ予防対策として全体の参加規模を縮小し、かつ、この種の研修会の演習の場面ではよくあるグループワークやペアワークは取り止めました。それでも会の最後には出席者から積極的に手が挙がり、活発な質疑応答が行われました。参加者の皆さんには講話のテーマについて理解を深め、今後の実践場面での活用に向けて多少なりとも示唆を得ていただいたのではないかと振り返っています。ご参加いただいた皆さんには改めて敬意を表します。

参加者からの主なコメント(原文のまま)

SVやSSWの違いについて知ることができた。不登校の生徒に対して、抱え込まずに、やすらぎなどの協力を得ることの重要性について学ぶことができた。

SVとSSWの役割が分かって相談の仕方が変わりました。今後、生徒やその家族との関わり方に生かせたらよいと思いました。

\*1 ミークス インターネットで子どもの悩みに応じ、適切な支援団体の情報を紹介してくれるサイト「Mex」(北國新聞朝刊同記事の中の記述より)

やすらぎ、SV、SSWなどについて詳しく知ることができ、とても有意義であった。実際にあった相談例やその対処法などを知ることができれば、今後に生かすことができると思うので、可能であれば取り上げてほしいと思った。



## 相談状況

	6月	7月	8月
来室相談	24	34	12
出張相談	1	0	2
電話相談	21	25	12
合計	46	59	26



相談件数の中にはSV、SSWの相談件数も含まれます。

## やすらぎ能登教室教育相談会

**SV（臨床心理士）：竹林 勇祐 先生**

面談は原則毎月第1月曜日14:00～17:00に行っています。

9月～12月の相談日

9/7（月） 10/5（月） 11/2（月） 12/7（月）

**SSW（精神保健福祉士）：高橋 直美 先生**

面談は原則毎月第1木曜日14:00～17:00に行っています。

9月～12月の相談日

9/3（木） 10/1（木） 11/5（木） 12/3（木）

不登校をはじめ、様々な問題について子どもの不安や悩みに耳を傾け、相談者のこころや環境に寄り添ってアドバイスをします。

学校生活に適應できない子どもに対する指導・支援のあり方等について相談会を開催しています。

悩みを抱え込まず、話を聞いてもらうだけでも気持ちが楽になります。

また、不登校・引きこもり・いじめ・非行・自分の性格に関する事などで悩みや気になることがありましたら、遠慮なくご相談ください。

（相談については、小中学生も対象としています）